

岡山理科大学附属中学校 学校いじめ防止基本方針

平成 25 年 9 月策定

令和6年 10 月改訂版

いじめに関する現状と課題

現代社会は価値観が多様化し、また、様々なストレスが混在する中、生徒の学力や規範意識などにも開きがあり、指導に注意が必要である。社会的な風潮であるが、人間関係で悩む生徒も多く、トラブルも発生している。

本校においては、これまで生徒理解を基盤とした教育活動を推進し、生徒の実態を把握・分析するためにいじめアンケートを毎年実施している。また、いっそう豊かで安定した生徒の学校生活を実現していくため、学校組織の見直しを図り、教職員相互が学校生活上の諸課題の共通理解と、その解決に向けた手立てを構築しようと検討している。

一方、いじめ問題を学校経営上の課題として位置づけ、十分な手立てを講じることへの課題として、いじめの実態や具体的事例を学校全体で検証する組織確立や時間確保、いじめを未然に防ぐ活動計画や活動内容の策定があげられる。こうした課題を解決するために、組織の見直しの中で、いじめの未然防止や早期発見、いじめへの対処に関し、組織機能をさらに確立していくことが重要である。

いじめ問題への対策の基本的な考え方

いじめに対する基本認識

すべての生徒と大人が「いじめはどの学校でも、どの学級でも、どの生徒にも起こり得る」という認識を持つようにする。また、いじめはすべての生徒に関する問題であり、生徒がいじめを行わないことのみならず、いじめを認識しながら助長・傍観をしないよう、すべての生徒に理解させる。

- (1)いじめは人権侵害・犯罪行為であり、「いじめを絶対に許さない」学校をつくる。
- (2)いじめられている生徒の立場に立ち、絶対に守り通す。
- (3)いじめる生徒に対しては、毅然とした対応と粘り強い指導を行う。
- (4)保護者との信頼関係づくり、地域や関係機関との連携協力を努める。

保護者・地域との連携

- 子育てのネットワークづくりの推進
家庭の教育機能の充実と、施策の推進を図る。
- ネットいじめの対応強化
情報モラル教育を充実させ、ネット上のいじめ等への対策を図る。
- 保護者、地域の学校運営への参画
学校や地域が課題を共有し、地域ぐるみで課題を解決する仕組みづくりを促す。

学 校 いじめ防止対策委員会

- 「いじめ防止対策委員会」 構成員
校長・教頭・事務部長・生徒指導課長・保健主任・養護教諭・カウンセラー・担当教員・(コース主任・担任)
- 「いじめ対策委員会」の活動
- 基本方針に基づく取り組みの実施行動
計画作成、実行、検証、修正
 - 相談・通報窓口
 - 関係機関、専門家との連携
 - いじめの疑いや生徒の問題行動にかかわる情報の収集、記録、共有
 - いじめの疑いにかかわる情報に対して関係する生徒への事実関係の聴取、指導や支援体制および保護者との連携などの対応方針の決定
 - 重大事態が疑われる事案が発生したときにその原因がいじめにあるかの判定
 - 重大事態にかかわる事実関係を明確にするための調査
 - 当該重大事態を踏まえた同種の事態の発生防止のための取り組みの推進
- ※学校のハラスメント防止等に関する規定に基づいて対応する。

関係機関との連携

- (1)警察本部との連携
○少年課・少年サポートセンターとの協議の実施。
- (2)警察署との連携
○生活安全課少年係やスクールサポーターとの連携。インターネットモラル教室実施
- 学校警察連絡協議会(学警連)での情報交換・共有
- 学校だけでは対応しきれない場合は直ちに警察への協力を求め、連携して対応する。
- (3)児童相談所等との連携
○サポート会議等の開催
- (4)いじめ防止活動にかかわる連携
○岡山県中学校校長会、岡山県私立中高保護者会連合会、青少年健全育成協議会等に対して、いじめ防止活動へ理解と協力の依頼。
- (5)法務局との連携
○人権擁護委員と連携した啓発活動
- (6)学校法人担当者との連携
○法人コンプライアンス対策課の担当者の助言を受ける。

学 校 が 実 施 す る 取 組

いじめの未然防止	<p>○人権尊重の精神に基づく教育活動を展開するとともに、生徒たちの主体的ないじめ防止活動を推進する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)生徒がいじめ問題を自分のこととして考え、自ら活動できる集団づくりに努める。 (2)道徳・特別活動を通して規範意識や集団の在り方等についての学習を深める。 (3)学校生活での悩みの解消を図るために、スクールカウンセラー等を活用する。 (4)教職員の言動でいじめを誘発・助長・黙認することがないように細心の注意を払う。 (5)常に危機感をもち、いじめ問題への取組を定期的に点検して、改善充実を図る。 (6)いじめ防止対策委員会が中心となり、年間計画に基づき定例会議の開催を位置づけ、教員研修の充実、いじめ相談体制の整備、相談窓口の周知徹底を行う。 (7)地域や関係機関と定期的な情報交換を行い、日常的な連携を深める。
早期発見	<p>○いじめは、大人の目の届きにくいところで発生しており、組織的に学校・家庭・地域が全力で実態把握に努める。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)生徒の声に耳を傾ける。(年3回のアンケート調査→いじめ防止対策委員会定例会議→個別面談、周りの生徒への聞き取り等) (2)生徒の行動を注視する。(校内巡視、チェックリスト等) (3)保護者と情報を共有する。(電話・メール、家庭訪問、PTAの会議等) (4)地域と日常的に連携する。(地域行事への参加、警察や関係機関との情報共有等)
いじめへの対処	<p>○いじめ問題が生じたときには、詳細な事実確認に基づき早期に適切な対応を行い、関係する生徒や保護者が納得する解消を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)いじめられている生徒やいじめを知らせてきた生徒の安全を確保する。 (2)いじめられている生徒や保護者の立場に立ち、事前説明の上関係者にも聞き取りやアンケート調査を行って詳細な事実確認を行う。 (3)学級担任等が抱え込むことのないように、いじめ防止対策委員会が主導となり学校全体で組織的に対応する。 (4)校長はいじめ調査委員会を設け、詳細な事実確認を行い、その事実に基づき、生徒や保護者に説明責任を果たす。 (5)いじめている生徒には、保護者と共通理解を図りながら、行為の善悪をしっかりと理解させ反省・謝罪をさせる。 (6)学校だけでは対応しきれない場合は直ちに警察への協力を求め、連携して対応する。 (7)いじめが解消した後も、保護者と継続的な連絡を行う。その上で実効性のある再発防止策を検討し、正確に保護者に伝える。 (8)必要に応じて、県が設置しているサポート機関の活用を図る。

